

発行 小林製薬株式会社 広報総務部
本社 〒541-0045
大阪府大阪市中央区道修町4-4-10
KDX小林道修町ビル
TEL 06-6222-0142 FAX 06-6222-4261

東京 〒135-0034
東京都江東区永代2-31-1
いちご永代ビル7階
TEL 03-5602-9913 FAX 03-3642-9128

特集

小学生と先生に聞いた、学校トイレのリアル

学校トイレの洋式化進んでも、児童の6割は学校での排便に抵抗感!?

ウォシュレットやジェンダーフリートイレなど、学校トイレに格差あり

》小学生と先生に聞きました!

》小林製薬「小学生のトイレ実態調査2017」結果発表!

- 学校のトイレ環境は年々向上しながらも、子どもたちの抵抗感は根強く残る
- 先生目から見ても、特に和式トイレはニオイや使いづらさ等の問題が多い
- トイレ環境が改善される学校とされない学校との間に、トイレ格差が広がっている





「小学生のトイレ実態調査2017」

小学生編

この度、当社では「小学生のトイレ実態」に関するWEBアンケートを実施し、調査結果をまとめました(2010年より6回目)。

■学校でうんちをしたがらない子どもたち

本調査によると、学校で全くうんちをしない子どもは約3割。月1回以下しかしないという子どもと合わせると半数以上に上りました【図1】。また、約半数の子どもが学校でトイレに行かずうんちを我慢した経験があることも分かりました【図2】。

図1 小学生の普段の生活と学校でのうんち頻度

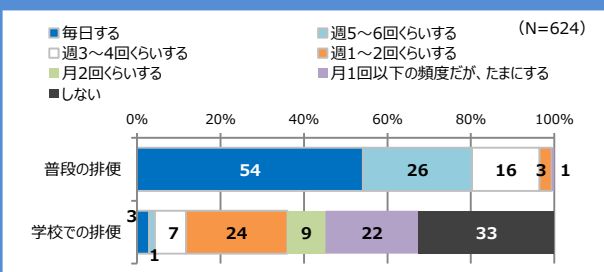
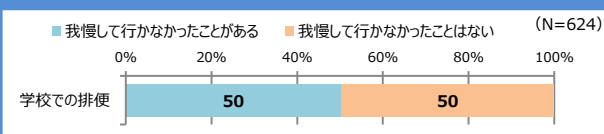


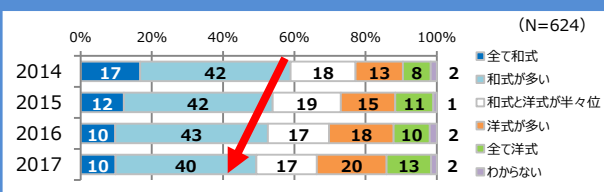
図2 学校でうんちを我慢したことがある小学生



■和式トイレは毎年減少、洋式トイレ化進み 初めて50%を突破

本調査によると、全体では和式トイレが多い小学校の方が多数を占めているものの、毎年減少し続け、今回初めて50%を切りました。洋式トイレを設置する小学校が徐々に増加していることが明らかとなりました【図3】。

図3 通っている学校のトイレの形式

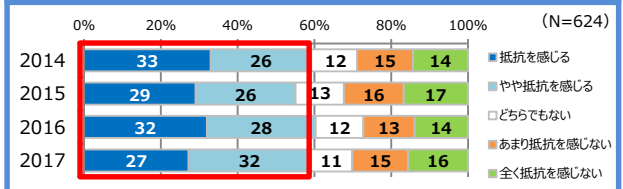


■学校トイレへの抵抗感、洋式トイレの増加による変化は？

学校でうんちをすることに対して抵抗を感じている子は約6割に上り、その割合は3年前からほとんど変わっていません【図4】。

特に和式トイレの多い小学校の子どもたちで、その傾向がより強いようです。今後、さらに学校トイレの洋式化が進めば、抵抗感も減っていくのでしょうか。

図4 小学校でのうんちへの抵抗感



抵抗を感じる理由としては、「恥ずかしいから」「落ち着かないから」が3年前から変わらず第1位・第2位を占めています。3番目の理由として、今回初めて「休み時間が短いから」が順位を上げてきました。「からかわれそう」「トイレが汚い・くさい」「和式トイレが苦手」等の意識が少しずつ減少している中、短い休み時間でトイレを済ませなくてはならない小学生の忙しさが新たな問題として浮上してきました【図5】。

図5 学校トイレでうんちをしたくない理由 (上位6項目/複数回答)

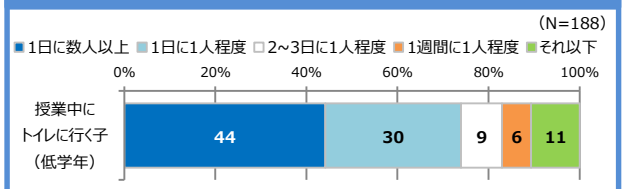
年	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位
2014	恥ずかしい 56%	落ち着かない 48%	からかわれそう 32%	和式トイレが苦手 32%	トイレが汚い 29%	トイレがくさい 25%
2015	恥ずかしい 59%	落ち着かない 47%	からかわれそう 29%	休み時間が短い 26%	トイレが汚い 25%	トイレがくさい 25%
2016	恥ずかしい 59%	落ち着かない 45%	からかわれそう 34%	トイレが汚い 31%	和式トイレが苦手 28%	休み時間が短い 25%
2017	恥ずかしい 57%	落ち着かない 48%	休み時間が短い 27%	からかわれそう 25%	トイレが汚い 23%	和式トイレが苦手 23%

「小学生のトイレ実態調査2017」

小学校の先生編

また、今年度は、小学生へのアンケートに加え、全国の公立小学校の先生にも小学校のトイレ事情についてのWEBアンケートを実施しました。そちらの結果によると、低学年のクラスでは授業中にトイレに行きたいと申し出る児童が1日に数人以上いると答えた先生が44.1%と最も多く、休み時間内にトイレを間に合わせる事が難しい様子がうかがえました【図6】。

図6 授業中にトイレに行く児童の数

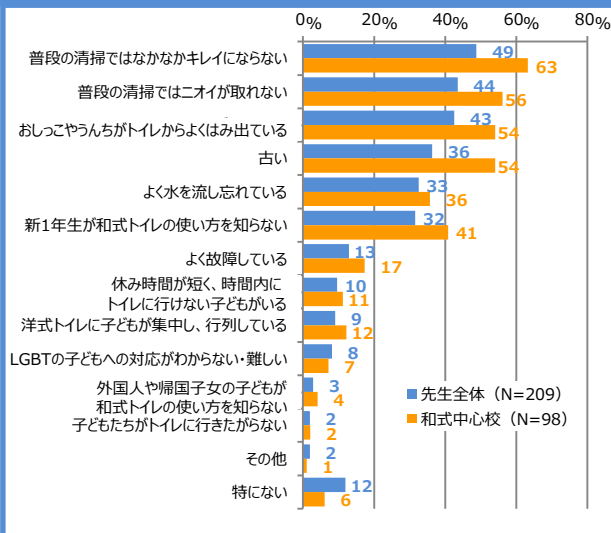




■先生たちが感じる学校トイレの課題

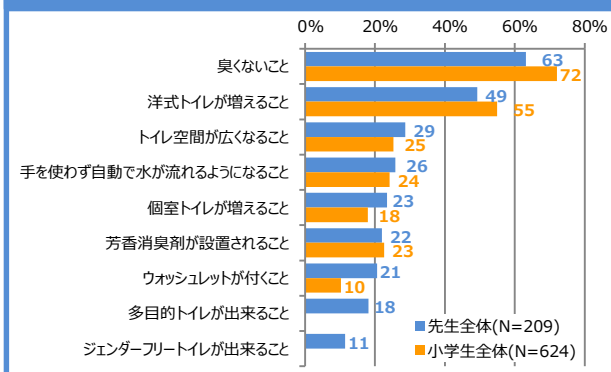
先生たちが学校トイレに対して感じる問題の第1位は、「普段の清掃ではなかなかキレイにならない」でした。この問題は、特に和式トイレ中心の学校が、洋式トイレ中心の学校の約2倍の63%にも上りました。また、**和式トイレ中心の学校特有の問題**として、「おしっこやうんちがトイレからよくはみ出ている」が半数以上、「**新1年生が和式トイレの使い方を知らない**」が約40%も挙げられました【図7】。

図7 先生が学校トイレに感じている問題



さらに、先生たちが学校のトイレに望むことは、おおむね子どもたちと同じで全体では「臭くないこと」が63.2%で第1位だったほか、**和式トイレが中心の学校では「洋式トイレが増えること」も63.3%と高くなりました**。また、**新たな課題として、多目的トイレやジェンダーフリートイレの設置を望む声も上がりました**【図8】。

図8 先生と小学生が学校トイレに望むこと

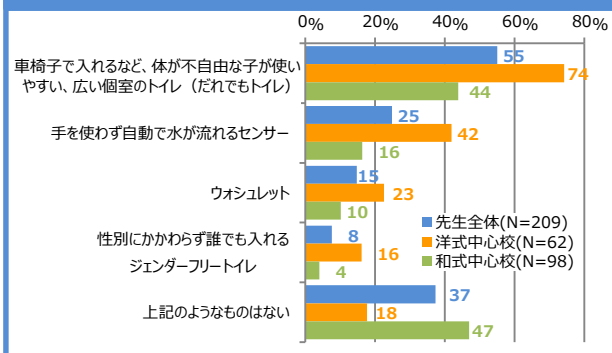


■環境改善の一方で、広がるトイレ格差

洋式トイレの増加に伴い、他の設備面も向上しているようです。**洋式トイレ中心の学校では、22.6%がウォッシュレットを、41.3%が手を使わず流れるセンサーを導入している**ことが分かりました。

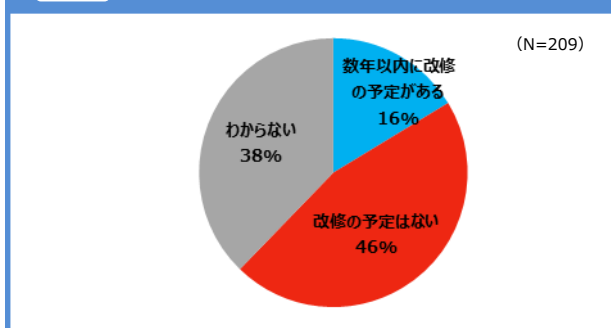
一方で和式トイレ中心の学校ではウォッシュレットが10.2%、センサーが16.3%と半分以下の導入率となり、同じ公立小学校でも、**学校間のトイレ環境格差が生まれている**ことが明らかになりました【図9】。

図9 学校トイレの設備



そんな中でも、**和式トイレ中心の学校の半数近くが今のところトイレ改修工事は予定ないと回答しており、小学校のトイレ環境の改善にはさらに時間がかかりそうです**【図10】。

図10 和式トイレ中心の学校のトイレ改修予定



《調査概要》『小学生のトイレ実態調査2017』

- 調査対象: ①全国の小学生がいる母親(25-49歳)と一緒に答えてもらう子ども(1年生~6年生 男女) 計624サンプル
②全国の公立小学校教諭(学級担任を経験したことがある/25-59歳 男女) 計209サンプル
- 調査方法: インターネット調査
- 実施時期: 2017年8月